



校長室の窓から

《校長だより》

神奈川県立市ケ尾高等学校

校長 増淵 広美

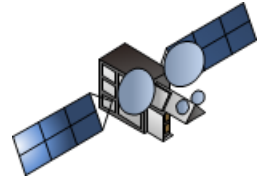
平成 27 年 12 月 22 日

第 9 号

より高きを目指せ！自分の壁を打ち破れ！

◆◆ 急速に変化が進む社会に生きている

今年も残すところあとわずか。年々社会の変化が早くなっているように感じます。国内だけに限ってもいろいろなことがありました。皆さんに関係が深いところでは、公職選挙法の改正により選挙権年齢が18歳に引き下げられ、来年夏の参議院議員通常選挙から適用されます。また、マイナンバー制度がスタートし、皆さんのもとにも一生使うマイナンバーが届いていることと思います。特に印象に残っているのは、「東ロボくん」です。16年度までに大学入試センター試験で高得点をマーク、2021年度に東京大学合格を目標に2011年度から研究・開発が進められていますが、今年、一気に成績を上げ、偏差値57.8(昨年47.3、一昨年45.1)を収め、「数学ⅠA」(64)、「数学ⅡB」(65.8)、「世界史B」(66.5)の3科目で偏差値60を超えました。



世界に目を向ければ、あらゆる分野でグローバル化が進み、それとともに社会でも多様化が進んでいます。さらに、急速な情報化や技術革新は、私たちの生活に変化をもたらすだけでなく、職業の在り方についても大きな変化をもたらすと予測されています。日本でも、65歳以上の高齢者が人口の3分の1に達し、人口そのものも1000万人以上が減少、働き方にも変化をもたらされるという「2030年問題」が大きく取り上げられています。海外でも、2011年度に小学校に入学した子どもたちの65%は、大学卒業時に今は存在していない職業に就くとの予測や、今後10年～20年程度で、半数近くの仕事が自動化される可能性が高いなどの予測、また、2045年には人工知能が人類を越える「シンギュラリティ」に到達するという指摘さえあります。これから生きる若い人たちには、これまで以上に自らの生涯を生き抜く力を培っていくこと、そして、社会の変化に受け身で対処するのではなく、自ら主体的に向き合って関わり合い、自らの可能性を最大限に発揮し、よりよい社会と心豊かな人生を創り出していこうとする姿勢が大切です。勿論、そのような社会の変化を背景に、子どもたちに必要な力を身につけさせるために、国でも県でも教育改革が進み、本校でも、教育課程の見直しやキャリア教育の再構築、組織的な授業改善に取り組んでいるところです。

◆◆ 「より高きを目指す」ということ

「より高きを目指す」——この言葉は、今年度4月の始業式で皆さんに伝えた言葉です（「校長室の窓から」第1号にも掲載）。始業式では、自分で自分の限界をつくることなく、より高い目標を設定し果敢に挑戦してほしい、そして、市高生全体で切磋琢磨し、モチベーションを共有することで、より一層高め合ってもらいたいと話しました。しかし、これは、単に高校生活だけのことではありません。将来の変化を予測することが困難な時代だからこそ、生涯を通じてその姿勢を貫いてほしいと思っています。自らの可能性をどんどん拓き、持っている力を遺憾なく発揮する、それは、人と比較したり、追い抜かしたりといった狭い視点に立つものではなく、もっと広い視点から、生涯を通じて、自らの意思と力で自分を磨き上げていくということ、そして、生涯、学び続けるということでもあります。また、それは、自分一人だけのことにとどまらず、多様性に富んだ周囲の人たちと力を合わせ（協働）、よりよいものをつくりあげていく、新たな価値を創造していくということでもあり、これもまた時代に求められる力です。

先日、フィギュアスケートのグランプリファイナルで、男子史上初の3連覇を成し遂げ、自身の持つ世界歴代最高得点を再更新した羽生結弦選手がインタビューで、前人未踏の300点をさらに大きく上回ったにも関わらず自らの課題に言及し、周囲のサポートへの感謝の気持ちに触れるとともに、「世界最高点という評価も大事だが、それよりもどれだけ自分の演技を極められるか」という信念にも似た言葉を述べていました。そして、帰国インタビューでは、「やっとここまで来れた。ここから始まる。」と話していたのがとても印象に残っています。また、同大会女子で2位となった宮原知子選手が、帰国インタビューで、羽生選手の優勝（最高得点の更新）に対し、「限界がないのがわかったような感じ」と述べていたのも深く印象に残っています。

羽生選手の快挙に、世界中の人たちが、夢と勇気と希望をもらったことと思います。変化の激しい現代だからこそ、市高生の皆さんにも、自らを貫く信念を持ち、無限の可能性の中で自分と真摯に向き合い、自分の壁を打ち破り、自らを極めていってほしいと願っています。

去年今年貫く棒の如きもの
高浜 虚子

昭和二十五年十二月二十日、虚子七十六歳、晩年の作で代
表句の一つ。高浜虚子は、明治から昭和にかけて活躍した俳
人で、正岡子規に師事し、俳句雑誌「ホトトギス」を引き継
ぎ、花鳥諷詠の客観写生を提唱したことでも有名です。
「去年今年」というのは新年の季語ですが、「貫く棒の如き
もの」という表現が実に見事です。文芸評論家の山本健吉の
著書『現代俳句』によれば、「作者の感慨が、一本の棒のよう
なものとして、具体的なイメージとして提出される。去年も
今年も、変わりはないのである。ただ、一本の棒のよう
かくべつの波瀾もない過ぎゆく月日が存在するだけである。」
と解説していますが、晩年の作であることを思えば、そこに
は、虚子の俳句に対する信念のような思いも感じ取れます。
私は、この句をふと思うとき、誰もが自分の中に貫くもの
を持って生きていく社会でありたいと強く思います。

●● 第2回学校説明会 ●●

11月29日(日)、本校体育館にて今年度の第2回学校説明会を開催しました。約1時間の説明会を2回(第1回10:00~11:00、第2回12:30~13:30)行い、当日の来場者は1,188名。また、当日は、青葉区民マラソン(9:00スタート)と日程が重なってしまいましたが、予め本校ホームページでご案内したこともあり、大きな混乱もなく無事終了することができました。お忙しい中をご来場くださった多くの中学生・保護者の皆様に心からお礼申し上げます。

今回は、学校紹介ビデオも最新版が完成。アンケートでもたいへん好評でした。また、今回も、本校生徒による「サポートチーム市ケ尾」が大活躍。「文武」の「武」(生徒会活動、制服・体育着、部活動等)の紹介は、生徒会本部、女子バレー部、吹奏学部の皆さんが行ってくれました。また、寒い中、野球部の皆さんが誘導に立ってくれたおかげで、来場した方々が迷うことなく会場にいらっしやることができました。

「サポートチーム市ケ尾」の皆さん、ありがとうございました。



■ 12月9日(水)《生徒とPTA役員との懇話》

2学期期末試験最終日の午後、生徒会役員、美化委員長(3名)とPTA役員の皆さんとの懇話会を行いました。当日は、生徒会担当の真島先生も参加。校長も、オブザーバーとして同席しました。

当日は、生徒たちが日ごろ考えていること、望むこと、やりたいと思っていることにPTAとしてどんな協力や支援ができるかということを中心に、忌憚のない意見を交換しました。

生徒から次々に出される意見やアイデアをPTA役員の方がどんどん黒板に書き出します。あまりに意見が多過ぎて黒板に書ききれず、A3判の紙に書き出してマグネットで貼るほどでした。皆が真剣に考え、意見を出し合う様子に感激!その発想もとても豊かです。



意見交換では、学習環境に関わるもの、特に校舎に関わるものが多く、どうしたら古い校舎でも心地よい環境にすることができるかということ

に話が及び、話題の中心が自ずと清掃のことになりました。清掃一つとっても、用具や時間の問題、清掃のやり方がまちまちで徹底できていないなど、多くの課題が出ました。それに対して、用具の整備、清掃マニュアルの作成、大掃除大会の実施など、多くのアイデアが出されました。「古くてもきれいな校舎」の実現に期待できそうです。まずは、手始めに、12月21日(月)の大掃除で、美化委員主導による大掃除大会が実施されました。大掃除大会では、教室部門とトイレ部門でそれぞれ優勝クラスを表彰。校長賞とPTA会長賞が贈られます。

■ 12月10日(木)《英語多読体験講座》

12月10日(木)の放課後、本校図書館(中央棟5階)にてPTA図書ボランティアによる「英語多読体験講座」が開催されました。企画立案から実施まであまり日がなく、案内のプリントが配付されてから2週間ほどでの実施でしたが、保護者10名、生徒4名が参加。講師は、日ごろ英語教育に携わっていらして本校の保護者でもあるお二人。お二人のわかりやすい説明や優しい話しかけ、英語の朗読に、皆さん聞き入っていました。今回は、多読の方法と楽しむポイントを中心に、皆で和気藹々と楽しみながら英語の絵本を読みました。英語の音声の簡単な入手方法なども紹介され、英語が格段に身近になったことと思います。



英語に苦手意識のあった生徒も、「少しずつ簡単な英語から始めればよい」という言葉に気持ちが楽になり、英語に触れる機会を増やしていきたいなど、モチベーションが上がったようです。保護者の皆さんからもうれしい感想をたくさんいただきました。親御さんの学ぶ姿がそのままお子さんに伝わるといのは、とても素晴らしいことだと思います。

生徒、保護者を問わず、何人もの参加者が、2020年開催の東京オリンピックでのボランティアを目指しています。是非、その目標を実現してください。

英語多読については、「Career Dash!」10月号でも、英語の上達に効果的な方法として紹介されています。まずは易しい本から読み始め、自分のレベルに合った本をたくさん読み、焦らずに徐々に、ゆっくりと本のレベルを上げていくのがよいようです。ここで、英語の本を読む際のポイントを再掲します。

- 1 辞書は引かない(引かなくてもわかる本を読む)
- 2 わからなくてもとにかく読む(その箇所は飛ばす)
- 3 つまらなくなったら止める(楽しく読めない本は読まない)

何となく楽しく英語が学べそうな気がしませんか。

本校の図書館には、「Oxford Reading Tree」(イギリスの小学校で採用されている「国語(つまり英語)」の教科書。短い物語形式で10のレベル。)をはじめ、英語の絵本や英語の書籍がたくさんあります。是非、一度、本校図書館で手に取ってみてください。きっと新たな可能性が開けてきます。

■ 12月12日(土)《ムササビ観測会》

今年で5回目を迎えるムササビ観測会。今年は7名が参加しました。以下、引率した椿先生からの報告をもとに皆さんに当日の様子をお届けします。

前日は大雨の荒天でしたが、当日は晴れて暖かい観察日和。まずは、高尾山口駅そばに新しくできた「TAKA0599」ミュージアムにてムササビの剥製と骨格標本を見学。「飛

膜」を広げた剥製と木に背を丸めて止まっている剥製は、全長70cm、体重1kg。リスの仲間ですが、大きさはまさにネコ。その後、リフトで高尾山薬王院へ。明るいうちに巣穴になっている直径15cmくらいの木の穴を確認し、ムササビが活動を始める日没後30分ほどまでの間、山頂までハイキングをして待ちます。

日没は16:30。暗くなってくるといよいよ行動開始。昨年も見ることができた寺務所の屋根の巣穴前で、赤いセロファンをつけた懐中電灯の光を穴に当てて待機。ムササビがいれば、その光で目が光るので認識できます。しかし、なかなか光らず諦めかけたその時、頭のすぐ上を座布団のような物体が！ムササビです。初めて間近で見ることができた喜びに思わず歓声があがります。

その後、境内にある大きな木の観察に移り、さらに2頭のムササビを観察。今までになく、木から木へとグライダーのように活発に飛び回る様子や取った餌を食べる



枝に止まっているムササビ

様子を観察することができ、参加した生徒たちは大喜びだったとのこと。

自然を理解するには、本物に触れることが何より大切。自然観察では対象動物をいつも必ず観察できるとは限りませんが、本校の観察会では毎回ムササビを観察できています。来年も実施します。皆さん是非参加してください。

■ 12月12日(土)《バトン部全国大会》

幕張メッセ(イベントホール)にて開催された「第43回バトントワーリング全国大会」に、本校バトン部が出場しました。県大会



(9/27)、関東大会(10/24)に引き続き、総勢22名での出場。曲は「judgement」。練習に練習を重ねて臨んだ全国大会です。会場は全国大会にふさわしい大きなホールでしたが、本校はダイナミックなフォーメーションでこれまでの練習の成果を発揮。白と黒の大胆なデザインの衣装も会場に映え、笑顔いっぱいの演技でした。

さすが全国大会、どのチームも素晴らしい演技でした。本校の成績結果は銀賞でしたが、金賞に輝いたチーム、



中でも最優秀賞で文部科学省に輝いたチームの演技は息を飲むほどの素晴らしさで、大いに勉強になったことと思います。

■ 12月17日(木)・18日(金)《球技大会》

12月17日(木)、18日(金)の2日間、市高恒例の球技大会が行われました。競技種目は、男女バスケットボール、男女サッカー、女子ドッジボール、男女混合バレーボールの6種目。市高の球技大会は、競技だけでなく、

クラス一丸となった応援がものすごい盛り上がりようです。日ごろ昼休みなどにクラスボールでバレーボールを楽しんでいる姿をよく見かけますが、だからこそ、球技大会でもクラスの結束が固く、熱戦が展開されるのだと思います。

◆◆ 冬の球技大会名物「市高豚汁」!

2学期の球技大会では、毎年、保護者の皆さんが作ってくださる豚汁が大人気。球技大会前からポスターが校内のあちこちに貼られ、皆、楽しみにしています。今年も、球技大会1日目の12月



17日(木)に豚汁がふるまわれ、大いに堪能しました。しかし、準備は相当たいへんだったと思います。何しろ、1200名の生徒と職員分、合わせて約1300食分。かなり早い時期からPTAの担当の方が計画を練り上げ、前日から準備をしてくださいました。保護者の皆様の温かな思いがあってこそ豚汁です。心から感謝申し上げます。

◆◆ さて、球技大会の結果は?

【男子バスケットボール】

1位: 3年1組 / 2位: 3年7組
3位: 3年5組

【女子バスケットボール】

1位: 2年3組 / 2位: 2年9組 /
3位: 3年10組

【男子サッカー】

1位: 3年3組 / 2位: 3年4組 / 3位: 2年2組

【女子サッカー】

1位: 3年8組 / 2位: 3年3組 / 3位: 3年1組

【女子ドッジボール】

1位: 3年5組 / 2位: 3年1組 / 3位: 1年4組

【混合バレーボール】

1位: 3年3組 / 2位: 1年10組 / 3位: 3年4組

さすがに3年生は強い!



■ 12月19日(土)《神奈川県高等学校合唱祭》

12月19日(土)神奈川県立音楽堂にて「第57回神奈川県高等学校合唱祭」(11:45開演)が開催されました。47校が参加し、本校の合唱部は15番目に登場。男子3名、女子5名の合計8名による混声四部合唱。とてもバランスのとれた歌声で、「クリスマスソングメドレー」(荒野のはてに・もろびとこぞりて・ジングルベル・サンタが待ちにやってくる)、「明日があるさ」を、顧問の大野先生の指揮に合わせ、時には堂々と、時にはステップや身振りを交えて愉快地歌ってくれました。



歌っているときの表情が皆生き生きとしていて、皆で歌うことを心から楽しんでいるといった様子です。歌の持つ素晴らしさに感動し、歌っていないなあ」と心から思いました。

■ 12月19日(土)《吹奏楽部クリスマス・コンサート》

合唱祭と同日(18時30分開演)、川崎市民プラザにて本校吹奏楽部の「第3回クリスマス・コンサート」が開催されました。今年のクリスマス・コンサートは、少し上品な演奏会をコンセプトに、クリスマス・ソングのメドレー、世界的に有名な歌の合唱を取り入れたプログラム構成とのこと。

第1部の曲目は、「ジャッカ」、「フランス組曲」、「車窓に広がる穀物畑〜アーサー・タヴの絵画より〜」、第2部の曲目は、「愛するデューク(合唱)」、「ジョン・ウィリアムズ・イン・コンサート」、「ピクサー・ムービー・マジック」、そして、最後は、クリスマスにちなんだ9曲が巧みなアレンジで構成された「クリスマス・フェスティバル」。演奏する部員もサンタさんの帽子をかぶっての楽しい演奏で、聴衆の私たちも、すっかりクリスマス気分になりました。

毎日、朝練や放課後の練習で楽器の音色が漏れ聞こえてきますが、この1週間、どんどんうまくなり、コンサート当日は、これまでの練習の集大成として十分な出来栄えだったと思います。会場の本校生徒、保護者の皆様をはじめ、すべての皆様が豊かなひとときを過ごされたことと思います。3月25日(金)には、定期演奏会も予定されています。是非、本校吹奏楽部の奏でる音楽を聴きにいってください。



■ 12月19日(土)《生物部校外活動》

実は、この日は、生物部も「東京都心のカラスの個体数調査」(主催:都市鳥研究会)に出かけていました。この調査は、1985年の第1回調査以来5年ごとに行っている調査で、今回が7回目です。本校は、前回(2010年)にも生物部として参加し、今年は生徒3名と顧問1名が参加しました。

調査が行われる場所は、明治神宮(渋谷区)、自然教育園(港区)、豊島ヶ岡墓地(文京区)の3か所で、本校は豊島ヶ岡墓地を担当。夕方ねぐらに集まってくるカラスの羽数を人海戦術でカウントします。これまでの調査では、1985年に6,727羽、2000年には18,664羽に急増し、その後は減少に転じ、2010年には7,728羽だったそうです。今回の調査の羽数はまだ集計中ですが、減少して30年前の水準に戻るのか、前回と変わらないのか、或いは再び増加傾向に転じるのか、参加している人たちも興味津々のようです。

総勢約60名の調査員による今回の調査、果たしてどのような結果になるのか、参加した生物部の皆さんもとても楽しみにしていることと思います。

■ 12月21日(月)《防災避難訓練》

12月21日(月)の1校時に、地震防災のための避難訓練を行いました。9月の「かながわシェイクアウト」にも参加しましたが、今回は、大地震が起き、建物が崩れて火災が起こったという想定で、全ての生徒、教職員が実際にグラウンドに避難します。

8時56分、大地震発生の放送が流れ、各教室では机の下に入るよう指示。さらに、8時58分、火災発生と避難の指示が放送され、一斉に避難開始です。各クラスの担任が、予め決められた避難経路を通して避難場所であるグラウンドまで誘導。グラウンドではすぐに整列して速やかに人員を点呼し、本部に報告することになっています。全員の確認がそろったところで避難完了。その後、教頭先生から講評です。

今回は、最も避難が早かったクラスが4分52秒、最も時間がかかったクラスが13分35秒とかなりの差があり、避難の迅速性に課題を残しました。また、上履きのかかとを踏んでいる生徒、ポケットに手を入れている生徒も少なからずいました。確かに寒い中での訓練でしたが、これも次回の課題です。実際に災害が起こった時には、どれだけ避難訓練に本気で取り組んでいたかが生死を分けまします。「何よりも大切な命を守る」ということを心に留め、避難訓練を行う意味をもう一度しっかりと考えてください。また、講評では、「自助・共助・公助」や昨年も紹介された「避難時グッズ」(携行品)について、再度、紹介されました。ちなみに、教頭先生の小さなポーチに入れられた携行品は、小さく折りたたまれた「大地震対応マニュアル」、ソーラー式懐中電灯、飴玉、100円硬貨(5つ)、呼子笛、そして、笛の中には、名前や住所、血液型、緊急連絡先等IDがわかる紙が小さく折りたたまれて入れられています。先日、テレビの防災特集で、携行品の一つとして「風呂敷」が紹介されていました。物を運ぶのは勿論、怪我をしたときの包帯や三角巾代わりにもなります。皆さんも、この機に、是非、避難時グッズを用意してみましょう。

■ 12月21日(月)《大掃除》

避難訓練の後は、1時間10分かけての大掃除です。清掃は、12月9日(水)の生徒とPTA役員による意見交換でも話題になっただけに、今回の大掃除は工夫が凝らされ、清掃作業の重点項目が清掃場所ごと明確に示されたり、美化委員主導による新企画「大掃除大会」が同時開催されたり、活気がある大掃除になりました。大掃除大会は、教室部門、トイレ部門の2部門で競われ、優勝クラスにはそれぞれ表彰状と景品が贈られます。審査方法も工夫されていて、審査の観点も明確に定められています。トイレ部門は、清掃前に点検し、清掃後の状況を評価。前日に、美化委員長と副委員長3名が担当の先生と一緒に1時間以上かけて各トイレを見て回りました。果たして、優勝クラスは?校長賞、PTA会長賞の景品は?

